

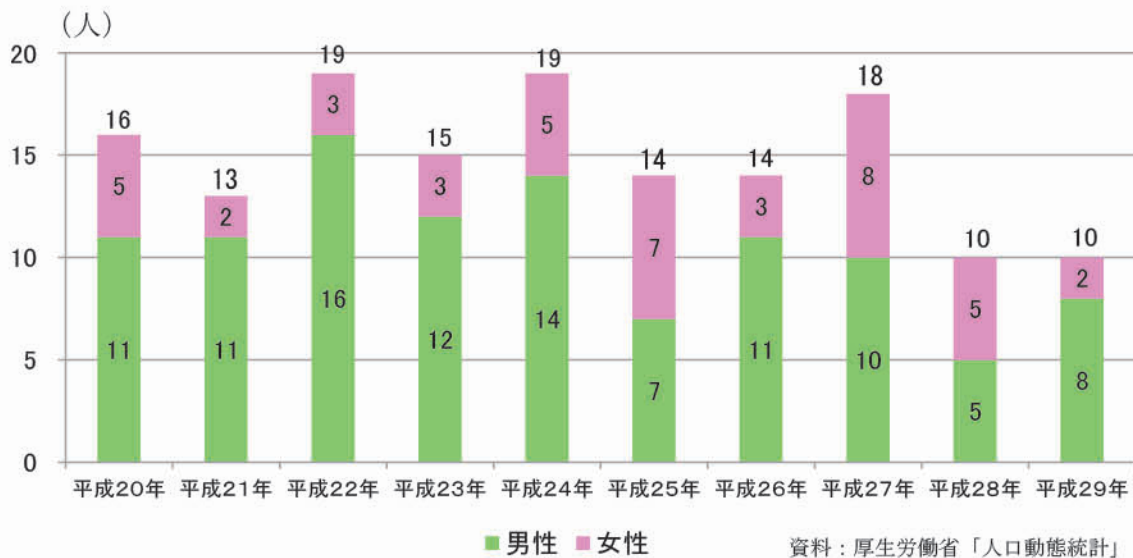
# 第2章 出水市における現状と課題

## 1 統計から見る出水市の現状

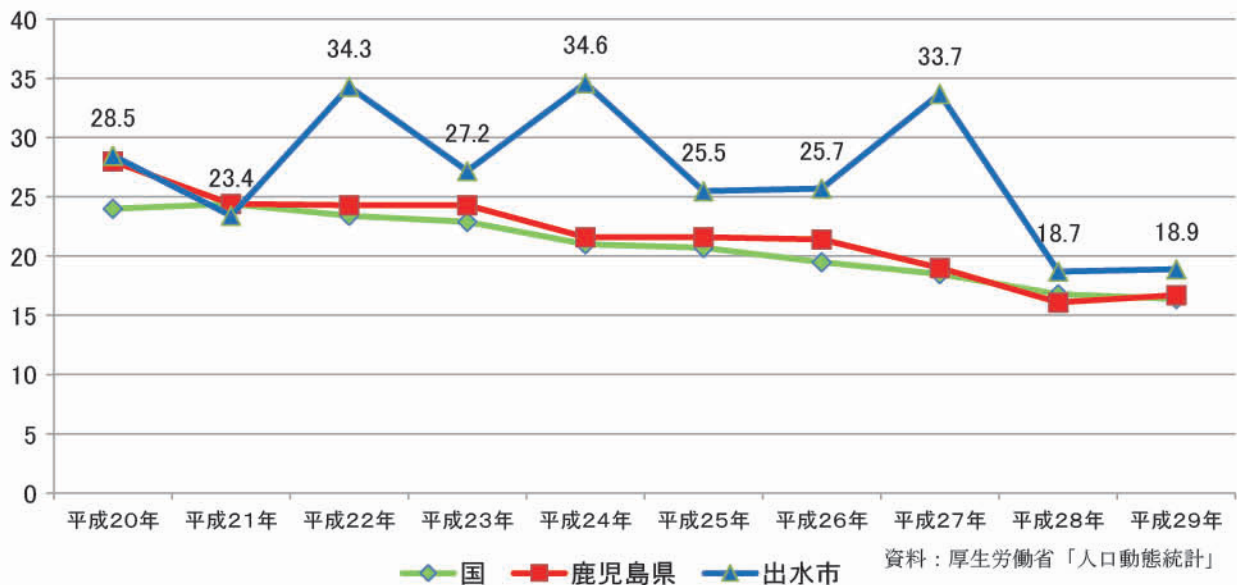
### (1) 自殺者の推移

本市の自殺者数の推移を見ると、平成20年から増減を繰り返しながら推移しており、平成28年から減少傾向にあります。10年間の平均では、男性が10.5人、女性が4.3人となっています。男女別では、男性が多い状況です。

また、自殺死亡率を見ると、平成21年に低下しましたが、その後は国や県より高い状況が続き、平成28年と29年は国や県とほぼ同率となっています。

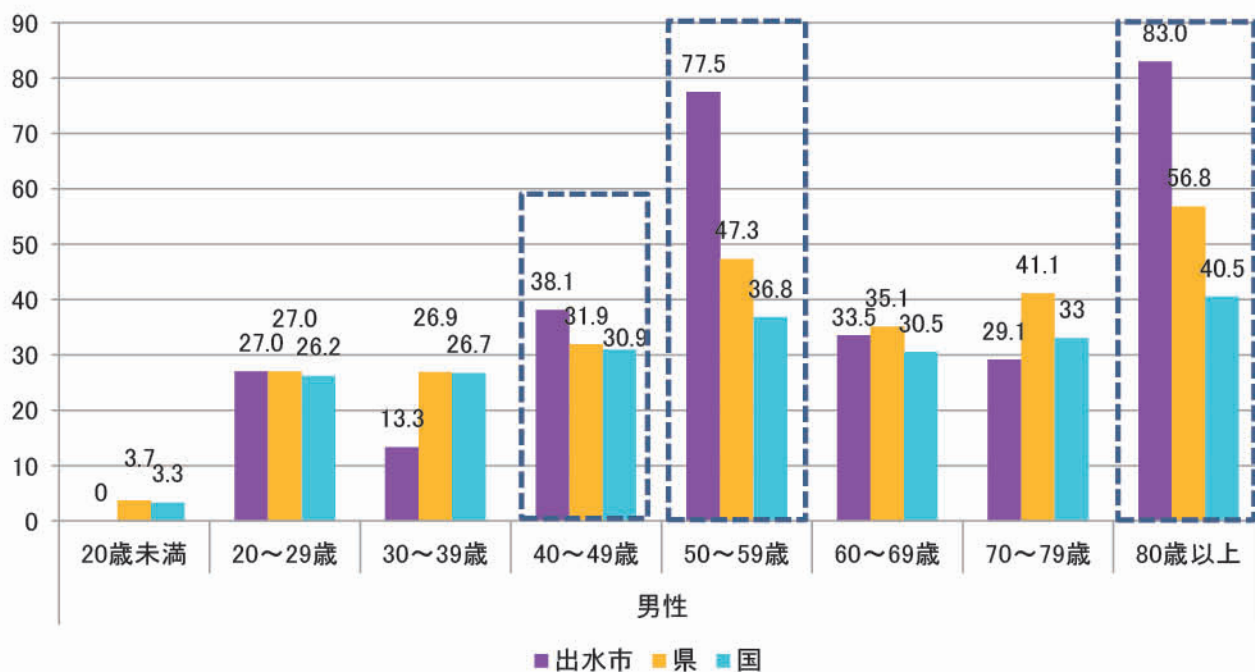


自殺死亡率の推移（人口10万対）

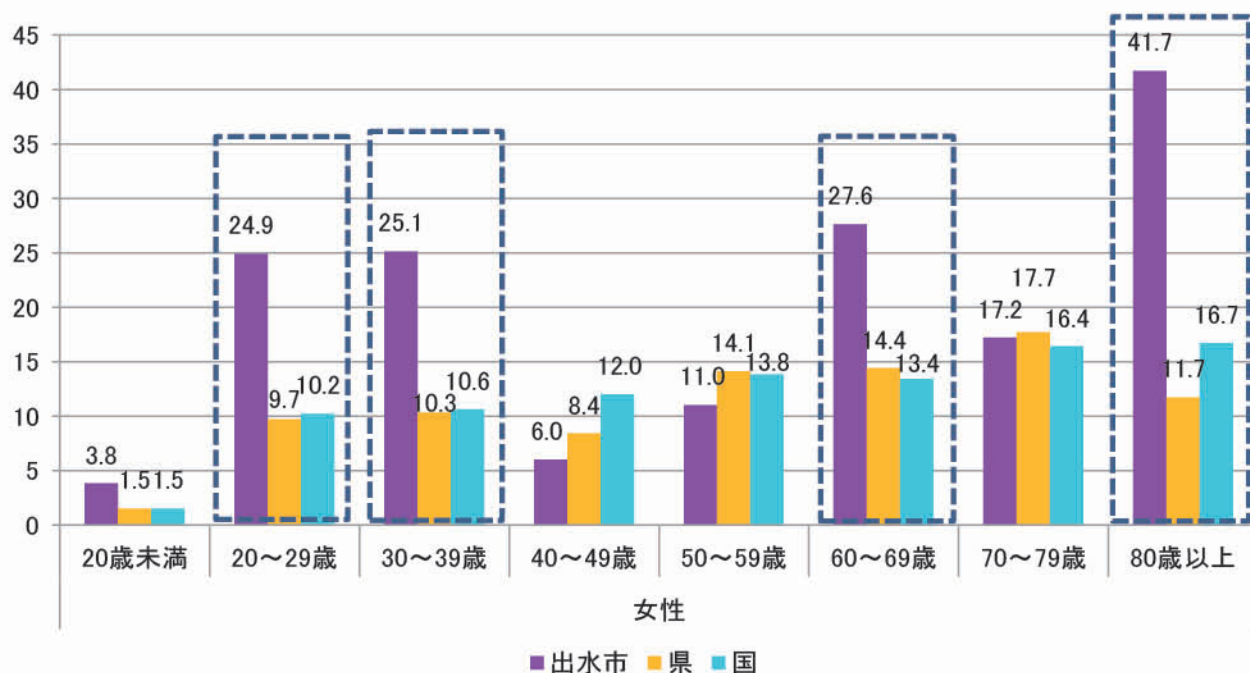


## (2) 男女年代別自殺死亡率（平成25年～29年）

自殺死亡率について、性別・年代別で見ると、男性は80代が一番多く、50代、40代の順になっています。女性は、80代以上が一番多く、60代、30代、20代の順になっています。男女ともに、国や県と比べても高い状況です。



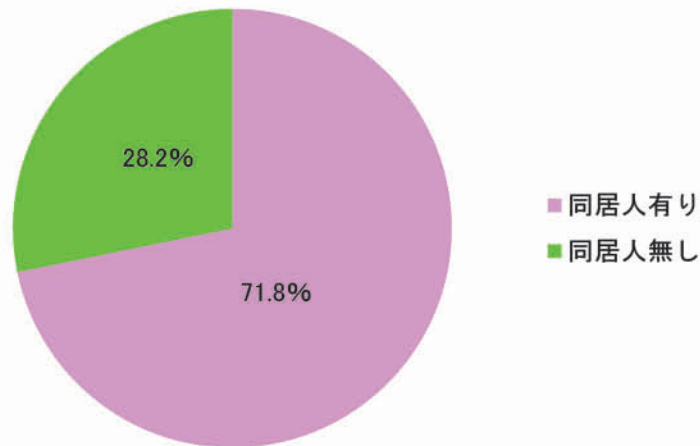
資料：地域自殺実態プロファイル（JSSC2018）



資料：地域自殺対策実態プロファイル（JSSC2018）

### (3) 同居人の有無の割合（平成25年～29年）

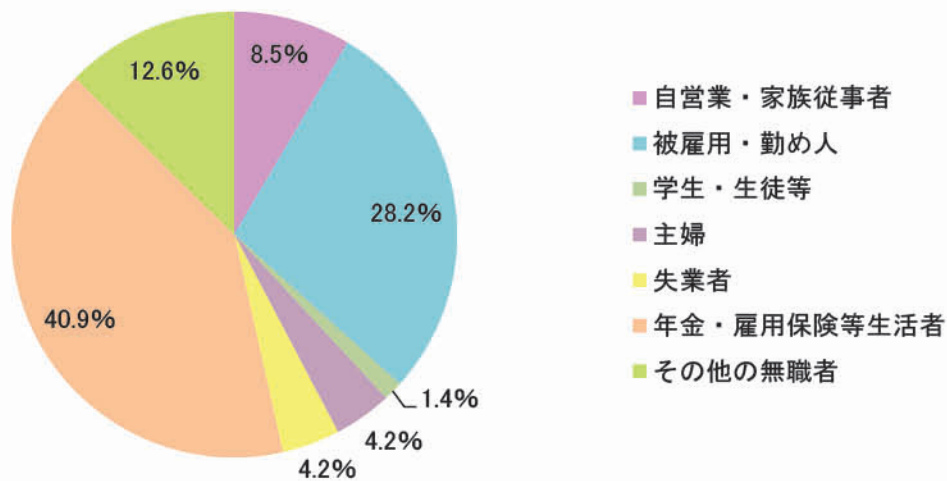
同居人の有無の割合を見ると、「同居人有り」が71.8パーセント、「同居人無し」が28.2パーセントとなっています。



資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

### (4) 職業別自殺者の割合（平成25年～29年）

職業別に自殺者の割合を見ると、「年金・雇用保険等生活者」が40.9パーセントで最も多く、次いで「被雇用・勤め人」が28.2パーセント、「その他の無職者」が12.6パーセントとなっています。

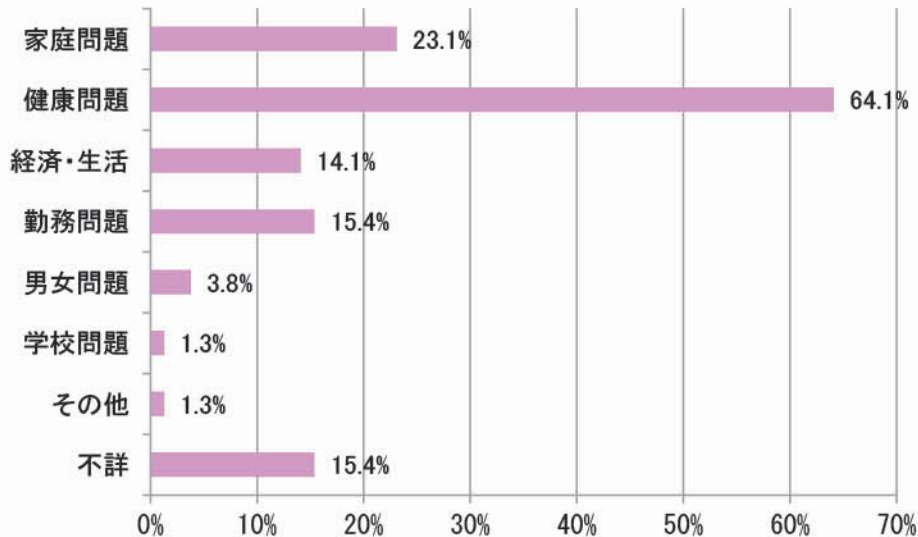


資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）



### (5) 原因・動機別自殺者の割合（平成25年～29年）

自殺の原因・動機別に自殺者の割合を見ると、「健康問題」が64.1パーセントで最も多く、「家庭問題」が23.1パーセント、「勤務問題」が15.4パーセント、「経済・生活」が14.1パーセントと続いています。

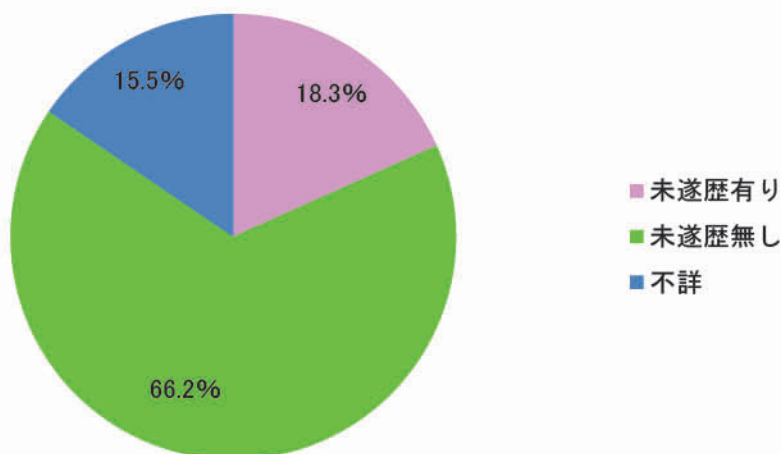


資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

### (6) 自殺未遂者の状況（平成25年～29年）

自殺者のうち、自殺未遂歴のあった者の割合は、18.3パーセントです。

自殺のリスクが高くなる自殺未遂歴を有する人を把握し、必要な支援へつなげることが重要であり、救急医療機関や精神科病院、救急搬送を担う消防署との連携が必要です。



資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

## 2 アンケート調査から見る出水市の現状

本計画の策定に当たり、市民のこころの健康状態や自殺に対する意識・認識を調査するため、次の方法でアンケート調査を実施しました。

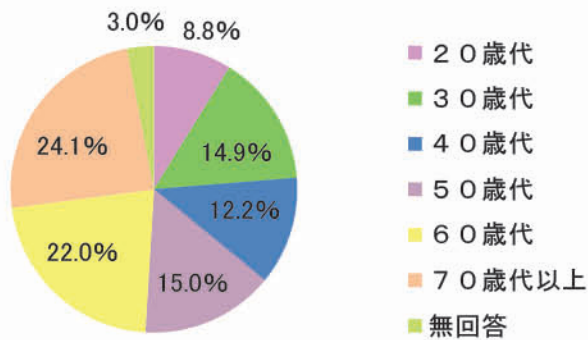
調査時期：平成30年7月2日から平成30年9月11日まで

調査対象：本市に住所を有する20歳から85歳を無作為抽出

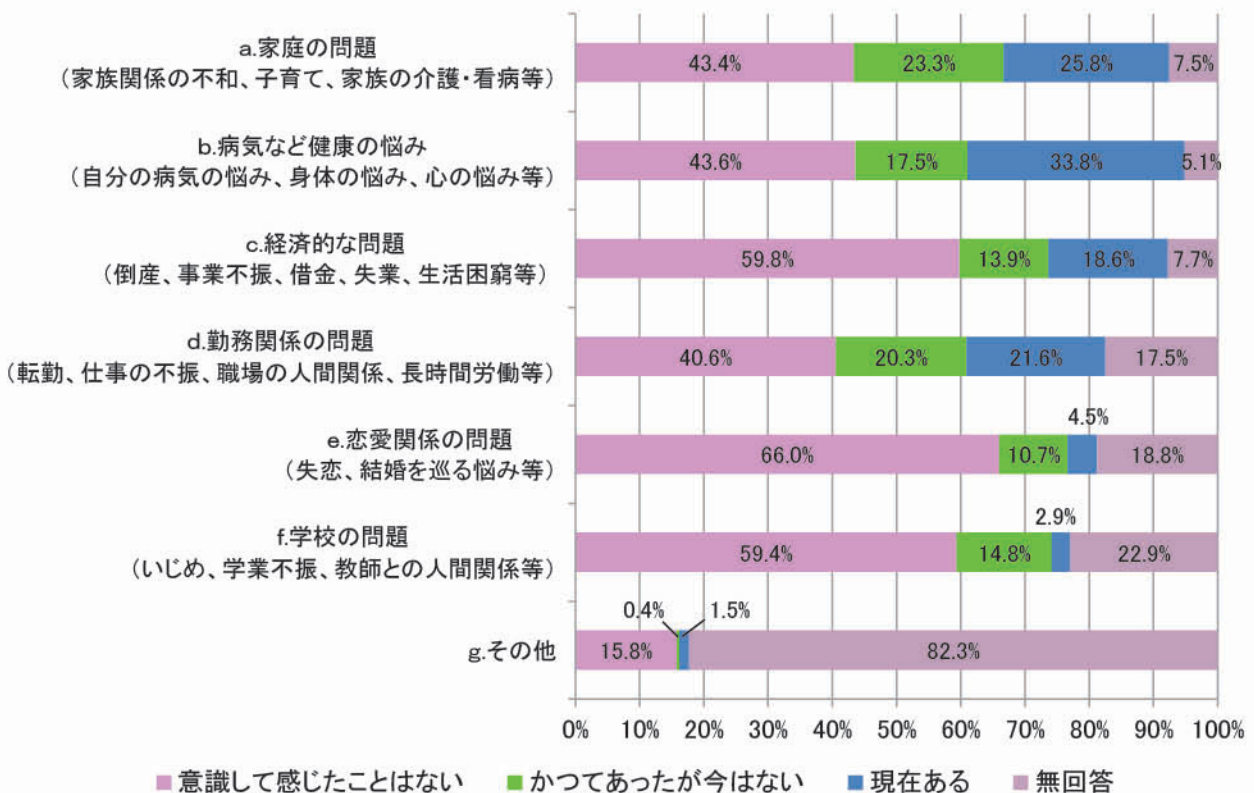
調査数：2,200人

有効回答数：532人（回答率24.2パーセント）

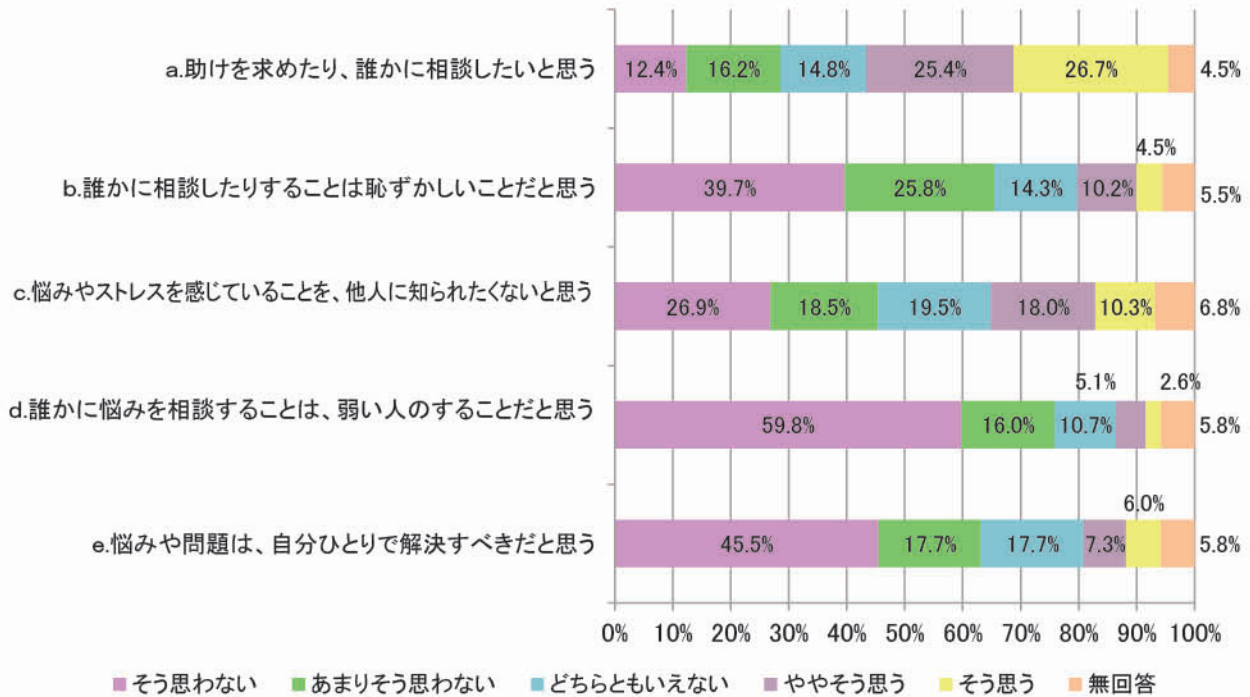
年齢別の回答者数の割合



- 日頃のこころの状態について、悩みやストレス、不満を感じるものが「現在ある」と回答した人を見ると、「病気など健康の悩み」が33.8パーセントで最も多く、次いで「家庭の問題」が25.8パーセント、「勤務関係の問題」が21.6パーセントとなっています。



- 「悩みやストレスを感じたときにどう考えるか」という問いでは、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」が、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせ 52.1 パーセントとなっています。「誰かに悩みを相談することは、弱い人のすることだと思う」は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせ 75.8 パーセントとなっています。

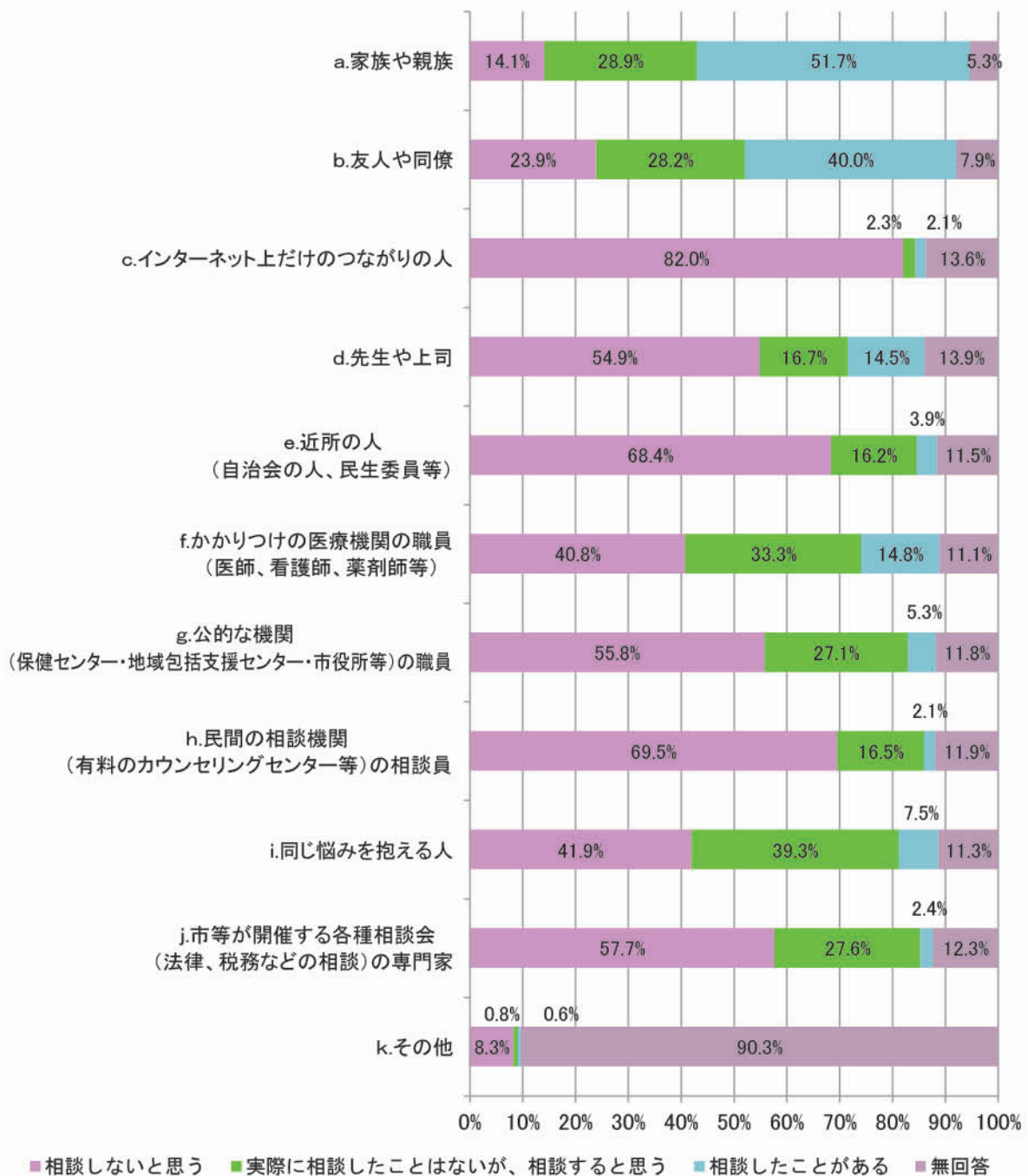




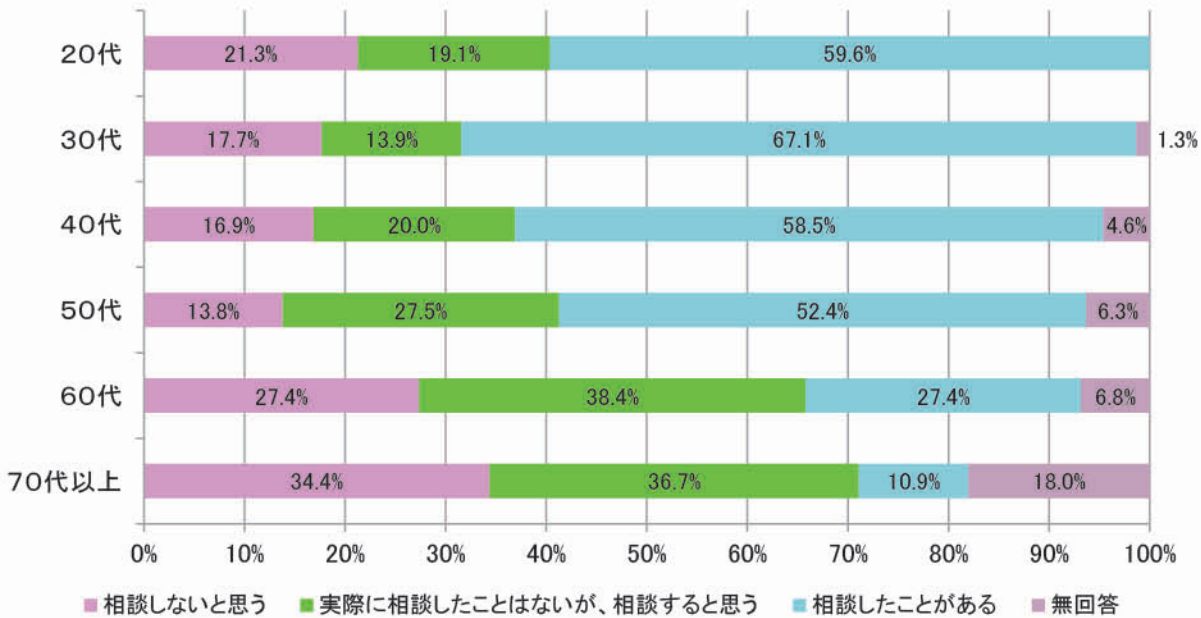
- 悩みやストレスの相談先について、「相談したことがある」で多いのは、「家族や親族」が51.7パーセント、「友人や同僚」が40パーセントとなっています。

「相談しないと思う」で多いのは、「インターネット上だけのつながりの人」が82パーセントと高く、次に「民間の相談機関」が69.5パーセント、「近所の人」が68.4パーセントとなっています。

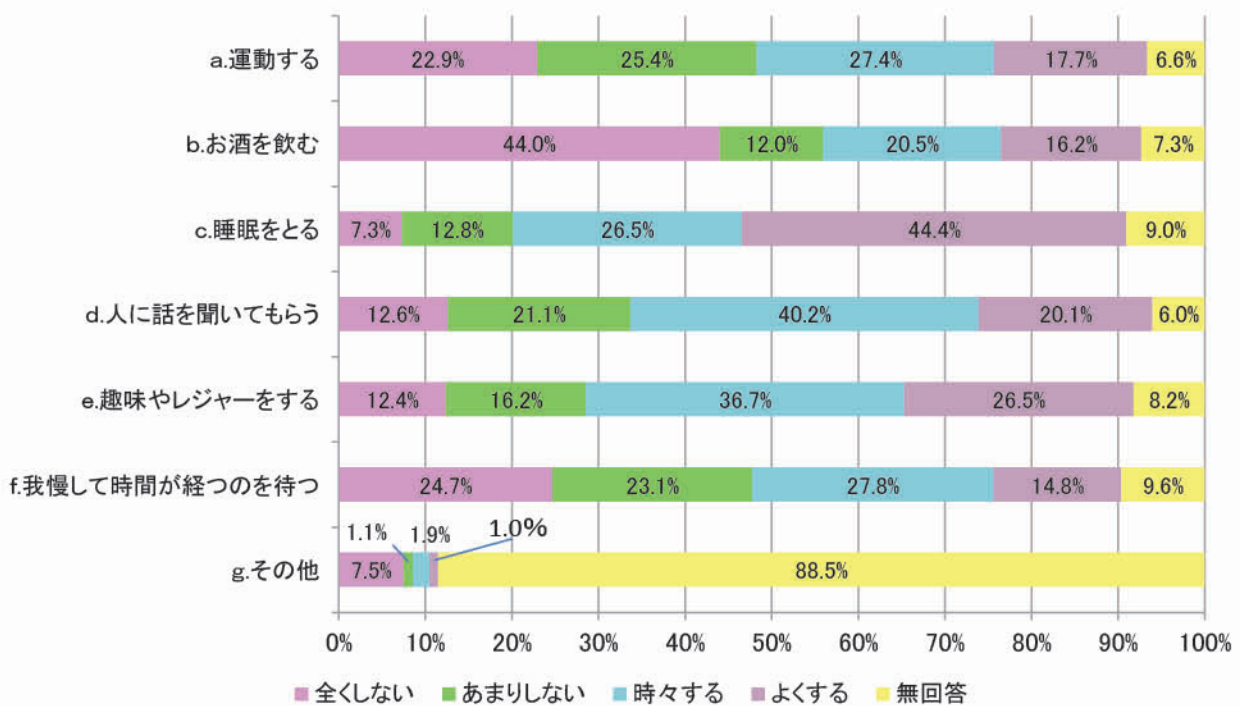
「実際に相談したことはないが、相談すると思う」は、「同じ悩みを抱える人」が39.3パーセント、「かかりつけの医療機関の職員」が33.3パーセント、「家族や親族」が28.9パーセント、「友人・同僚」が28.2パーセントとなっています。



- 悩みやストレスを感じたときに相談する相手として「友人や同僚」に「相談したことがある」と回答した人を年代別に見ると、30代、20代、40代、50代の順となっています。相談相手がゲートキーパーの役割を果たせるように職域においてもゲートキーパー養成講座を実施することが必要です。

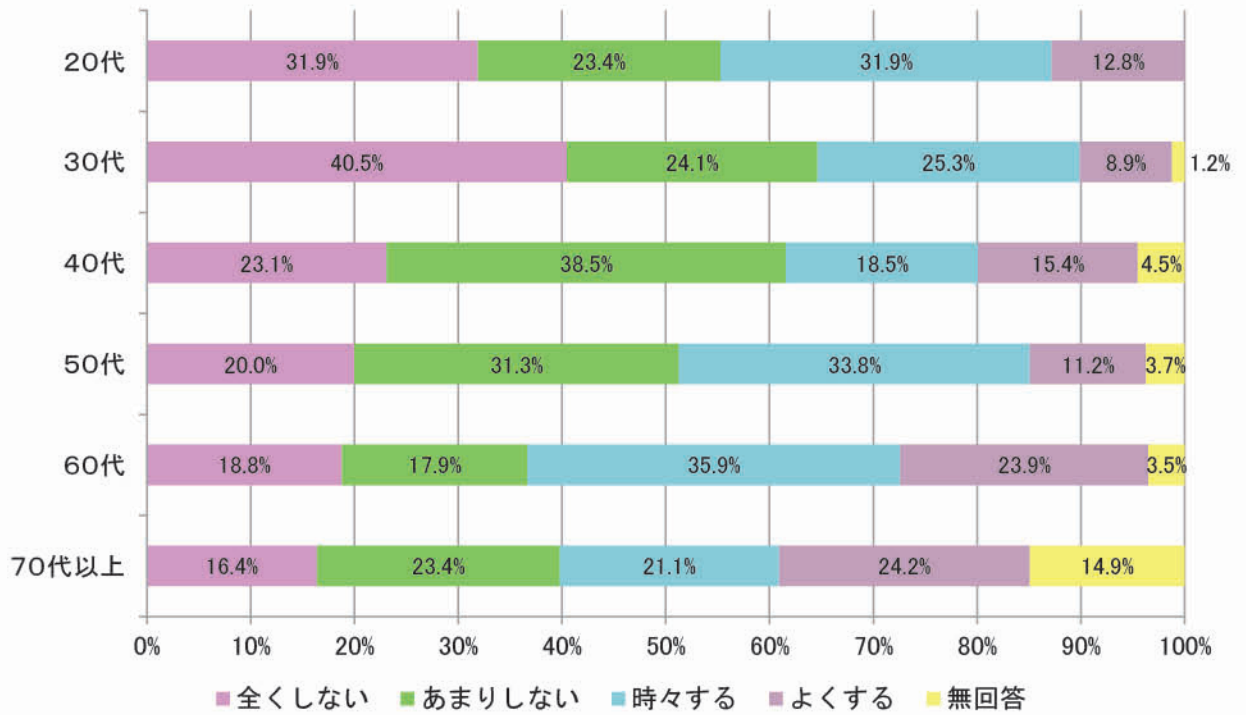


- 日常生活の不満、悩み、苦勞、ストレスを解消する方法としては、「時々する」「よくする」を合わせ「睡眠をとる」が70.9パーセント、「趣味やレジャーをする」が63.2パーセント、「人に話を聞いてもらう」が60.3パーセントとなっています。



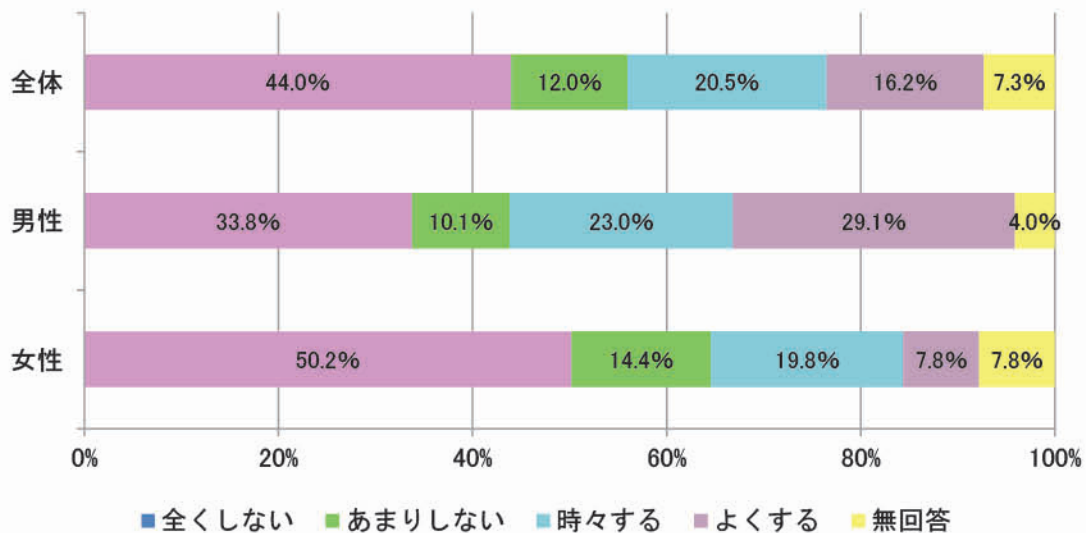
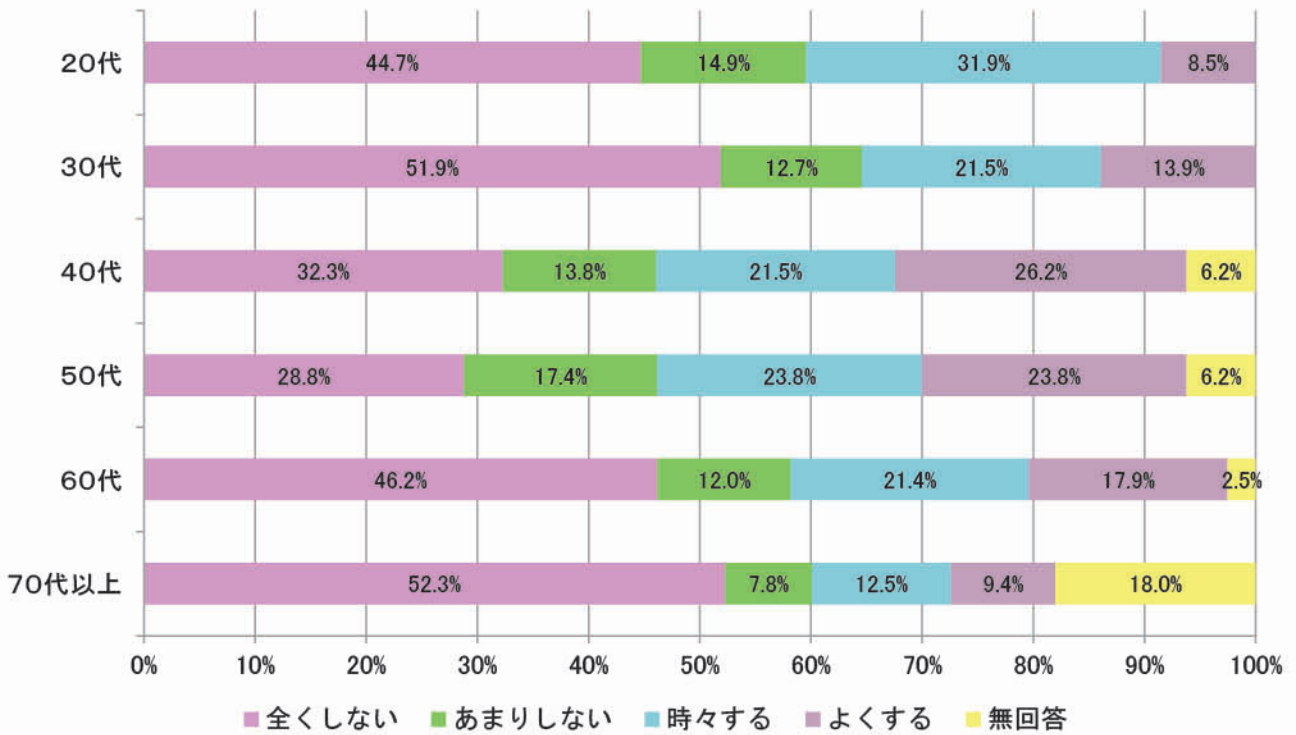


- 「運動する」の項目では、「全くしない」と回答した割合が30代で40.5パーセント、20代で31.9パーセントと他の年代より高くなっています。

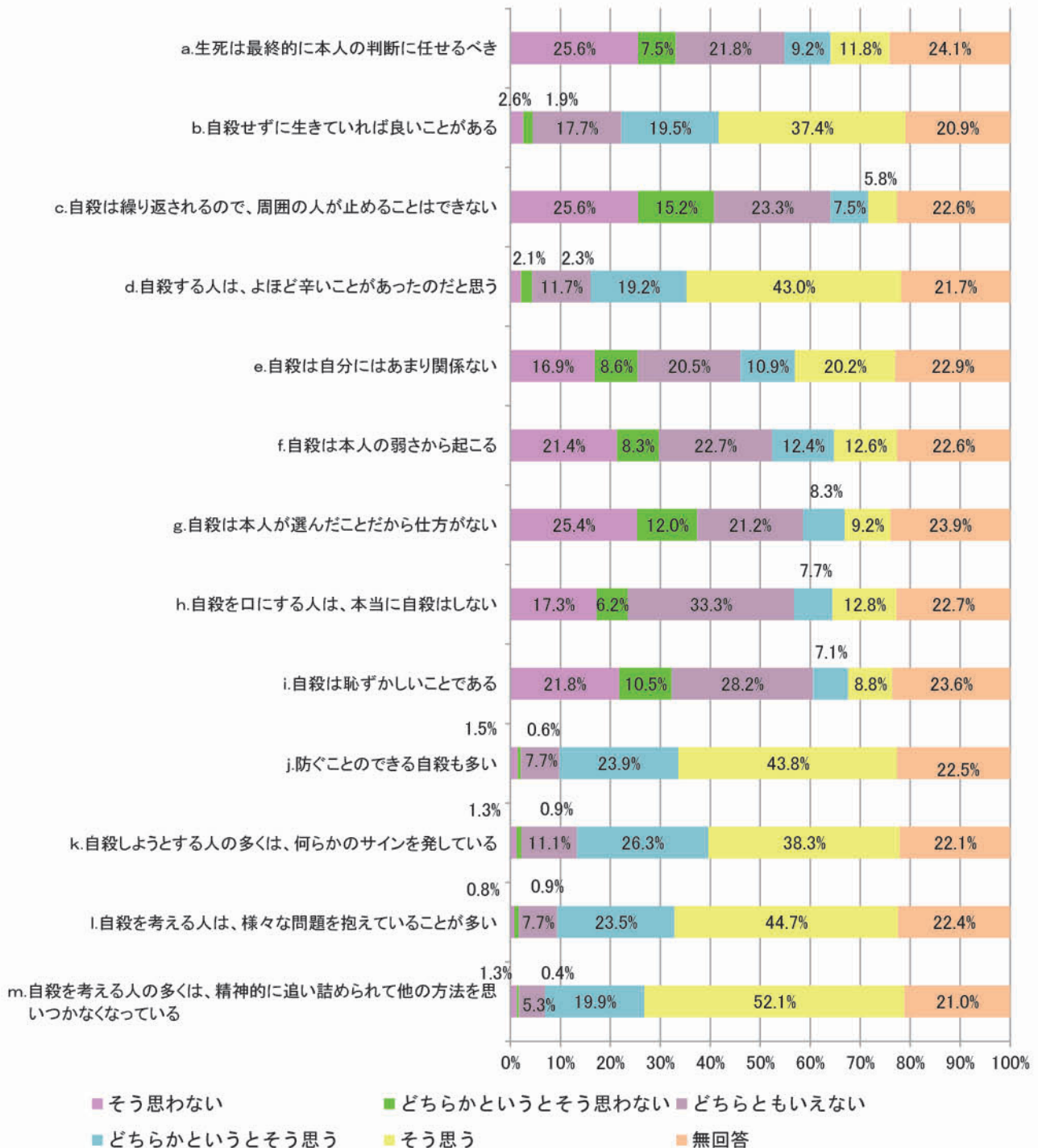


- 「お酒を飲む」の項目では、「よくする」と回答した割合が40代で26.2パーセント、50代で23.8パーセントであり他の年代より高くなっています。

性別で見ると、「よくする」と回答したのは女性が7.8パーセントであるのに対し、男性は29.1パーセントと高くなっています。

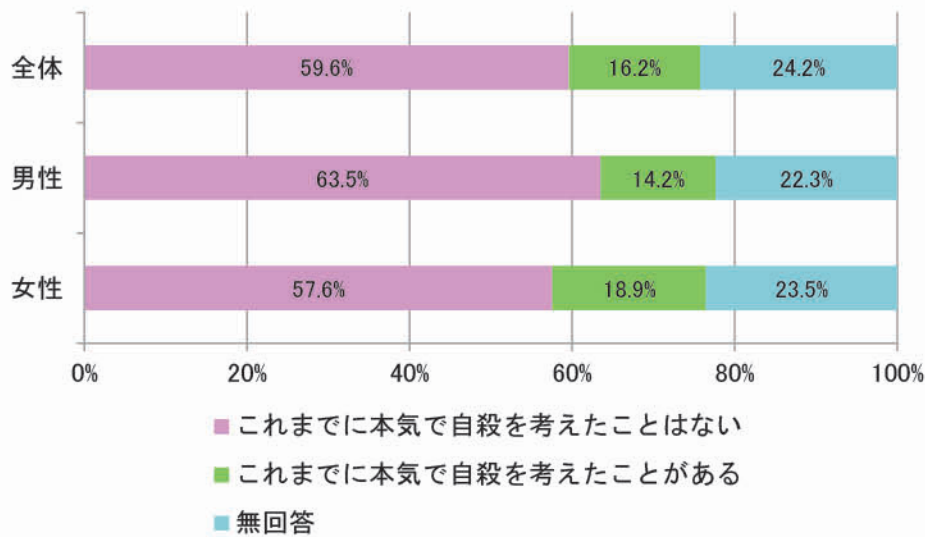


- 「自殺についてどのように思うか」についての問いで、「そう思う」と回答した人の割合は、「自殺を考える人の多くは、精神的に追い詰められて他の方法を思いつかなくなっている」が52.1パーセント、「自殺を考える人は、様々な問題を抱えていることが多い」が44.7パーセント、「防ぐことのできる自殺も多い」が43.8パーセント、「自殺しようとする人の多くは、何らかのサインを発している」が38.3パーセント、「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」が43.0パーセント、「自殺しようとする人の多くは、何らかのサインを発している」が38.3パーセントの順となっています。

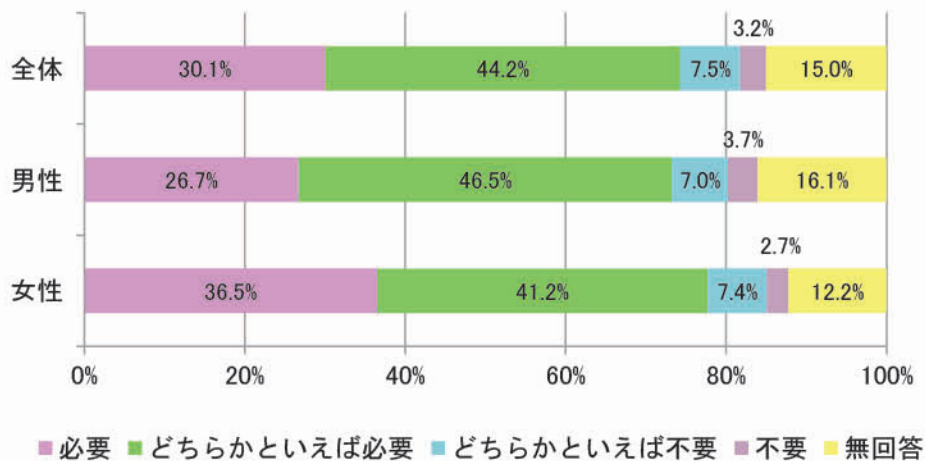




- 自殺したいと考えたことがあるかについては、「これまでに本気で自殺を考えたことはない」が59.6パーセント、「これまでに本気で自殺を考えたことがある」が16.2パーセントとなっています。



- 自殺対策に関するPR活動については、「どちらかといえば必要」が44.2パーセントと最も多く、次いで「必要」が30.1パーセントとなっています。



### 3 出水市における自殺の特徴

#### (1) 出水市の主な自殺の特徴

自殺総合対策推進センターの分析から、平成25年から29年までの5年間に於いて自殺者の多い上位5区分が本市の主な自殺の特徴として抽出されました。それによると、「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」を重点項目として取り組む必要があります。

本市の主な自殺の特徴（H25～29年合計）

上位5位	自殺者数 5年計 (人)	割合 (%)	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位：男性60歳以上無職同居人有	13	18.3	62.4	失業（退職）→生活苦→介護の悩み（疲れ）＋身体疾患→自殺
2位：男性40～59歳有職同居人有	12	16.9	49.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み＋仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位：女性60歳以上無職同居人有	9	12.7	28.5	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位：女性60歳以上無職独居	7	9.9	52.9	死別・離別＋身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位：男性60歳以上無職独居	4	5.6	86.0	失業（退職）＋死別・離別→うつ状態→将来の生活への悲観→自殺

資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

#### (2) 高齢者関連の特徴

60歳以上の自殺者の同居の有無を見ると、男性は60歳代から80歳代まで同居人有りの割合が高くなっています。女性は、60歳代は同居人有りの割合が高く、70歳代、80歳代では同居人無しの割合が高くなっています。

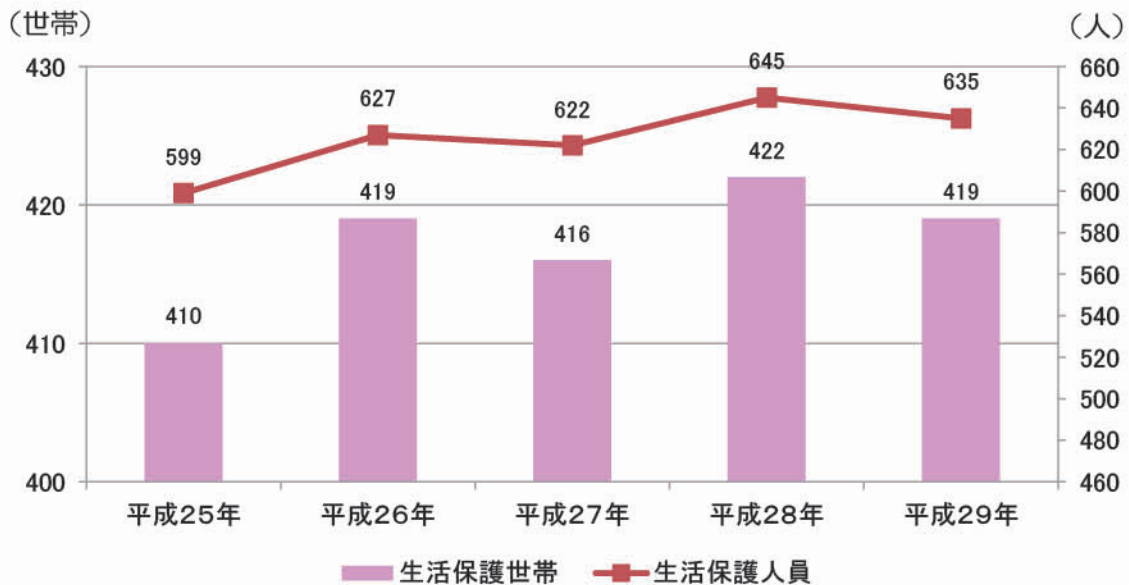
60歳以上の自殺の内訳（H25～29年合計）

性別	年齢階級	同居人の有無（人数）		同居人の有無（割合）		全国割合	
		有り	無し	有り	無し	有り	無し
男性	60歳代	7	0	19.4	0	17.1	10.8
	70歳代	3	1	8.3	2.8	15.1	6.3
	80歳代	5	3	13.9	8.3	10.4	3.6
女性	60歳代	6	0	16.7	0	9.7	3.2
	70歳代	1	2	2.8	5.6	9.1	3.8
	80歳代	3	5	8.3	13.9	7.4	3.5
合計		36		100		100	

資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

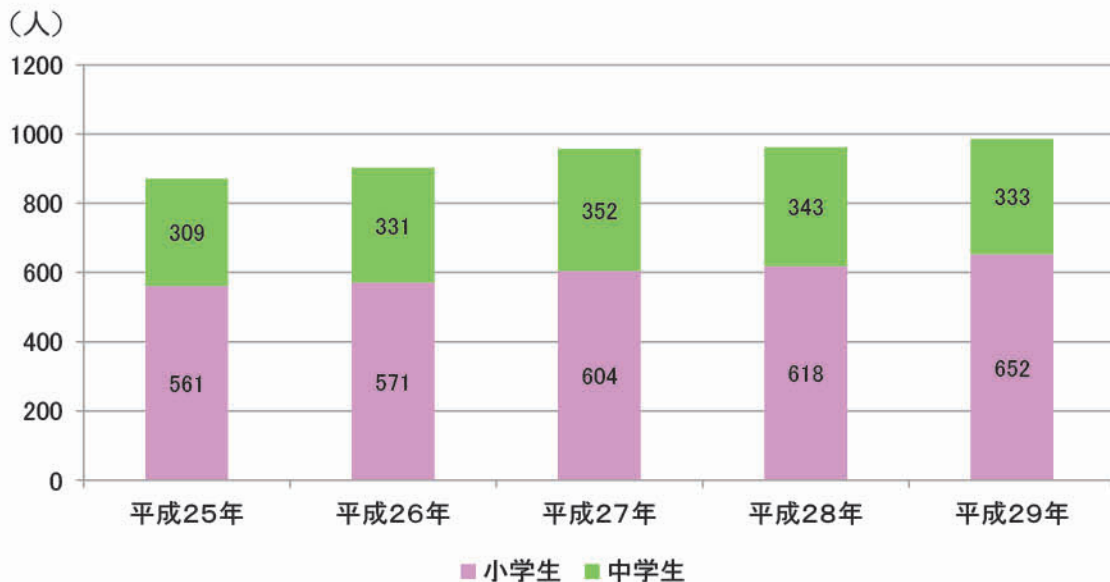
### (3) 生活困窮者関連の特徴

生活保護受給者については、世帯数及び人員共に増加傾向にあります。



資料：福祉課

小学生・中学生の就学援助の認定者は年々増加傾向にあり、平成29年度の対象児童・生徒数は、全4,982人のうち985人となっています。



資料：市教育委員会教育総務課



### (4) 勤務・経営関連による特徴

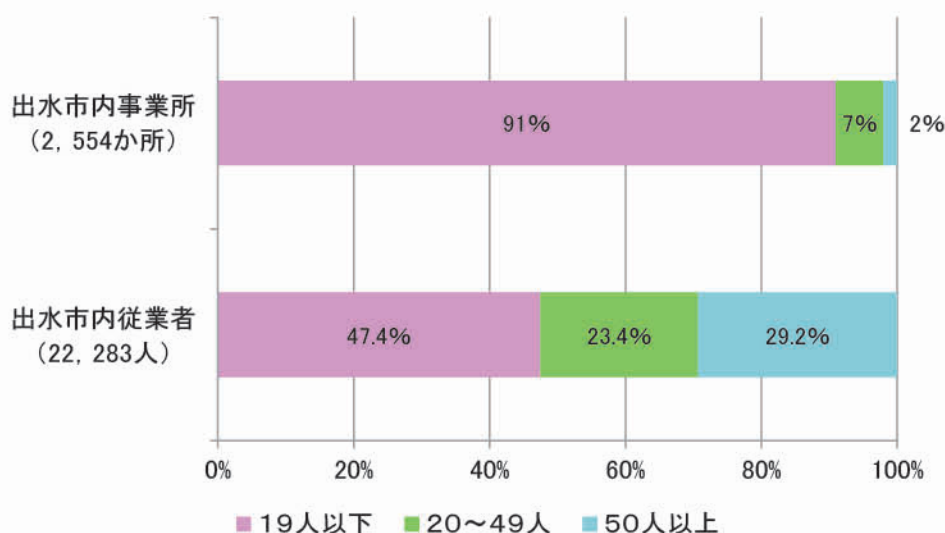
労働者数50人未満の小規模事業所ではメンタルヘルス対策に遅れがあることが指摘されており、地域産業保健センター等による支援が行われています。自殺対策推進の上でも地域の関係機関との連携による小規模事業所への働きかけが望まれます。

有職者の自殺の内訳（H25～29年合計）  
（性別・年齢・同居の有無の詳細を除く。）

職業	自殺者数(人)	割合(%)	全国割合(%)
自営業・家族従事者	6	23.1	20.3
被雇用者・勤め人	20	76.9	79.7
合計	26	100	100

資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

事業所規模別事業所/従業者割合



資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）

事業所規模別従業者数

	総数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上	出向・派遣従業者のみ
事業所数	2,554	1,519	505	293	108	71	34	23	1
従業者数	22,283	3,273	3,307	3,975	2,573	2,646	2,242	4,267	-

資料：地域自殺実態プロフィール（JSSC2018）